

募金して鶴を持ち帰りましょう

被害を風化させないために、震災の記事で折られています
あなたもお一ついかがですか？



災害の悲劇が鶴になって飛び去るよう、多くの方が折り鶴を持ち去ることで悲しみを分かち合い復興に役立てます。鶴の翼には、鳥類調査に用られている「翼タグ」を模した黄色いシールが貼られています。「復興千羽鶴」という文字と「F2781」といったナンバーが書かれており、二つと同じものはありません。今回の震災では、様々な被害があり、細かに異なる被災状況があることを表しています。

また、黄色は自然界において注意や警戒を意味し、予断を許さない状況を表しています。この黄色は、光の当たる場所に長期間置かれると次第に白くなります。黄色が白に変わる頃には、復興が進み注意を集めなくてもよくなっていることを祈ります。被害が隠蔽され、日の目を見なければ、いつまでも警戒を要する状況のままであることも暗示しています。年月が過ぎてから折り鶴を開けば、乗り越えてきた当時の状況が思い出されます。

ご協力：西区社会福祉協議会 いきいきクラブ 絵手紙さざんかの会 絵手紙サークル虹 絵手紙マープル，
日進絵手紙同好会 千種区社会福祉協議会 はつらつ会 名東ひまわり会、瑞穂絵手紙クラブ，
中富 文月の会 エイジトピア星が丘 中村楽しい絵手紙の会（時系列で掲載）
企画：不二工房 fujii@fujii-f.com

復興千羽鶴プロジェクト <http://www.fujii-f.com/turu>